

会山行 No.2306

北ア：剣岳・立山

◆日程	2020年9月19日(土)～9月21日(月)
◆メンバー	L：SD、OY、OT、TT、KN、MD、KK
◆天候	晴れ

9月19日(土)

金曜日の夜行バス毎日アルペン号で竹橋を出発。狭い車内ではあったが室堂まで乗り換えなしで行けるのは有り難い。朝8時に室堂到着。朝食を食べ身支度を整え、集合写真を撮ってから出発する。2時間程前までは雨が降っていたが今は止んでいる。晴れ男のTTさんが居るからか、今回の山行は天気恵まれそうだ。

今回もコロナ対策で個人テント、食事も各自用意のため、みんな大きなザックを担いでいる。雷鳥ヒュッテから剣御前小屋までの急登は新室堂乗越経由の緩やかルートを選択したが、それでもザックの重さが肩にずっしりと響いた。剣御前小屋からは一転急な下りとなるが剣沢のキャンプ場が見えて来て、まだそんなにテントが多くないのが確認できてホッとす。キャンプ場に着くと全員が近いところにテントを設営した。

TTさんやKKさんは初個人テントということ、設営で注意すべきポイントを説明しながら一緒にテントを立てた。特に剣沢は風が強い場所なので大きな石で張り綱をしっかり止めるように話をした。実際、その晩かなりの強風が吹いて何張りかテントが飛ばされたようだ。幸い我々のパーティーは大丈夫だったが、夜中にテントを押さえていて一睡もできなかったという人もいた。私は熟睡していてよくわからなかったが…。

個人テントだと暇つぶしが必要になる。私の場合はラジオと本だ。今回はラジオで相撲やナイターを聞きながら本を読んで過ごすという極楽テント生活を送った。新しい山行スタイルなんだろうが、やはり大きなテントでみんなでわいわいしゃべりながら飯を食いたいなあ、というのが偽らざる本音だ。みんなで鍋をつつく日が待ち遠しい。(記：SD)

CT：室堂 8:50-雷鳥ヒュッテ 9:20-新室堂乗越 10:10-剣御前小屋 12:00-
剣沢キャンプ場 13:00

9月20日(日)

剣沢キャンプ場は、山に囲まれた広々とした空間。きれいに整備され、トイレが遠いのを除けばかなり快適、しかも財布に優しい(2泊で千円/人)。初日の夜中から強い風が吹いて、風に押されたテントの壁が寝ている私の背中をぐいぐい押して、まさか風に飛ばされるかと一晩心配してほとんど眠れなかった。朝3時半に起き、寒いのでトイレに行くのを嫌って、テント内でお湯を沸かしベトナム風のインスタントフォーとコーヒーで体を温め、携帯品を軽ザックに入れてからようやくテントから出ました。5時手前ですが、メンバー全員が揃いました。まだまだ暗いのでヘッドランプが必要でした。

剣山荘を通り過ぎてから、名物の鎖場が次々登場。一部対面通行だが、ほとんど上り専用、下り専用で分けられました。4連休のせいか団体さんがかなり多い、危ない箇所でも10分以上待ち時間がありました。一服剣から聳える前剣を見ると、かなりの威迫を感じられ、これを取り越えないと剣岳に登頂できませんと自分に言い聞かせました。

一般登山道なので岩には鎖やボルトが整備されているので心配は少ないですが、ルート全体に緊張感が必要。有名なタテバイ、ヨコバイも同様。ベテランのSDリーダーが、足の置き場や身体の使い方を教えてもらって何とか無事に通過しました。9番目の鎖場を過ぎて岩頭から山頂を探すと、まだ10分以上がらがるの石斜面を続け、ようやく山頂へ。祠の周りが登頂記

念写真で順番待ちの人達に賑わいました。

最高の天気恵まれ、山頂から槍をはじめとする穂高連峰、白馬三山～知らない山々もクッキリ、見えるもの全部見えました。山頂で20分滞在して堪能してきました。

登山道は大きな石が多いので、下りは一歩一歩膝に衝撃がかかり、かえって鎖場の方が膝の負担が少ない気がする。そして浮石落石に注意が必要。

今回私が剣岳と同じくらい心を奪われたのが、剣沢キャンプ場を中心とした三田平やあの辺りのカールとそれを囲む山々の存在。また、剣御前から続く別山尾根とそれに囲まれた剣沢に続くカールの美しさも。自然の雄大さに感動。
(記:KK)

CT: 剣沢キャンプ場 05:07 - 剣沢小屋 05:12 - 剣山荘 05:46 - 一服剣 06:09 - 前剣 06:52 - 前剣の門 07:15 - 平蔵の頭 07:51 - カニの横バイ 08:19 - カニのハサミ 08:38 - 剣岳 08:42 - カニのハサミ 09:05 - カニの横バイ 09:20 - 平蔵の頭 09:48 - 前剣の門 10:31 - 前剣 10:42 - 一服剣 11:32 - 剣山荘 12:38 - 剣沢小屋 12:58 - 剣沢キャンプ場 13:06

9月21日(日)

3日目、剣沢キャンプ場は、静かに明けた。KN日も剣岳がキレイに見える。山行開始時、3日目は剣沢から室堂にまっすぐ帰る予定だったが、皆の話し合いの結果、立山三山を巡って室堂に帰るコースに決まった。

初日に室堂に着いてから天気はほぼ晴れ続き。ずっと素晴らしい展望に恵まれ、剣岳にも無事登頂を果たし、ほんとに順調過ぎる山行の中でチャレンジすることになった。また、OTさんがこの後、途中から大縦走に出られることもあり、一の越山荘まで一緒に行こうとのことで決定した。

まずは別山。昨日の剣岳登山とは打って変わっての重い荷物と、起き抜けの急登で眼が覚める。この山行唯一のガスが湧き出し、少し霧雨が降ってくる。息を切らせながら1時間半ほどで別山に到着する。この頃にはガスは晴れてきて、青空と北アルプスの大パノラマが戻ってきた。白い縦走路とハイマツの緑、ダイナミックな展望が雄山方面に向けて続いている。山々の間に「槍」「傘」「剣」が覗いたり、消えたり・・・山好き羨望の景色だ。

景色を見ながら、気持ちの良い縦走路をアップダウンして真砂岳へ。この頃になると雄山、室堂方面からの軽装の登山者とすれ違いが多くなってきた。縦走路から見える雷鳥沢キャンプ場は、立錐の余地のないほどビッシリと色とりどりのテントが貼り付いて見えている。

急登からの岩場を越えて「富士折立」、「大汝山」「雄山」の三山を進む。身体に疲れはあるものの、好天とパノラマが後押ししてくれて本当に気持ちの良い縦走をすることができた。

雄山から一の越山荘に下る頃には、逆方向の登りは登山客とハイカーで行列状態。さすがに日本有数の観光名所である。一の越山荘で五色ヶ原方面に向かうOTさんとお別れし、室堂バスセンターへ。充実した2泊3日の山行を無事に終えることができた。

3日間にわたり天候、景色、そして何より仲間に恵まれ、憧れの頂上にも立つことができ、本当に感謝、感謝の山行だった。山の神様に心から感謝です。
(記:KN)

CT: 剣沢キャンプ場 5:00 - 別山 6:20 - 真砂岳 7:15 - 富士折立 8:20 - 大汝山 9:00 - 雄山 9:30 - 一の越山荘 10:20 - 室堂バスセンター 11:20